

「再発子宮頸癌における予後栄養指数の検討」

へご協力をお願い

研究機関名	岡山大学病院			
責任研究者	岡山大学病院	産科婦人科	講師	中村圭一郎
分担研究者	岡山大学病院	産科婦人科	講師	関典子
	岡山大学病院	産科婦人科	助教	楠本知行
	岡山大学病院	産科婦人科	助教	春間朋子
	岡山大学病院	産科婦人科	医員	依田尚之

1. 研究の意義と目的

(1) 研究の背景

子宮頸癌は婦人科悪性腫瘍で2番目に多く、再発率はFIGO病期分類I B-II A期で11-22%、II B-IV A期で28-64%であり、難治性疾患の1つである。現在まで再発子宮頸癌の予後予測マーカーはなく、今回再発子宮頸癌の有効な予後予測マーカーの発見を行うこととする。

(2) 研究の目的

さまざまな癌腫において、患者の炎症状態（Systemic inflammatory responses ; SIR）と予後の相関について報告されている。多くの癌種において、好中球,リンパ球,血小板,アルブミン,好中球リンパ球比（neutrophil to lymphocyte ratio; NLR）,血小板リンパ球比（platelet to lymphocyte ratio; PLR）,予後栄養指数（prognostic nutritional index; PNI）は予後の不良と関連することが指摘されている。2015年我々は放射線併用化学療法（concurrent chemoradiation therapy; CCRT）後の再発子宮頸癌において、PLRが予後予測因子となり得ると報告している。また、2015年 MizunumaらによりCCRTや放射線治療後の子宮頸癌においてNLRが予後予測因子となると報告されている。しかしながら、手術後の再発の場合、手術と術後補助療法後の再発の場合についての報告はなされていない。治療中の血液検査から好中球,リンパ球,血小板,アルブミンを用い,その他の臨床的因子を含め予後予測因子を後方視的に検討する。

2. 研究の方法

1) 研究対象：2004年から2015年の間に当院で加療を行った再発子宮癌患者；79名

2) 研究期間：承認日～平成29年12月31日

3) 研究方法：

Retrospectiveに2004年から2015年の間に当院で加療を行った再発子宮頸癌患者79名を対象の血液データを用い、臨床的因子、progression free survival (PFS) や overall survival (OS) との相関性について、検討する。

4) 調査票等：

あなたの個人情報は削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) 情報の保護：

本研究のすべての担当者は、「ヘルシンキ宣言」および「疫学研究に関する倫理指針（以下疫学研究倫理指針）」を遵守して実施します。

研究実施に係る情報、データを取扱う際は、被験者のプライバシー及び個人情報の保護に十分配慮致します。患者さんから得られたデータは、以後通し番号による連結可能匿名化し、管理します。研究の結果を論文や学会で公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにします。また、研究の目的以外に研究で得られた被験者のデータ等を使用しません。診療情報およびアンケート回答用紙から得られたデータは、研究終了後5年間保存します。保存期間が終了した時点で、匿名化されたまま廃棄します。

6) 研究結果の開示

研究全体の成果につきましては、ご希望があればご本人にお知らせいたします。ご本人のご承諾があればご家族や代諾者の方にもお知らせ致します。担当医師にお申し出ください。

<問い合わせ・連絡先>

所属： 岡山大学病院

職名： 講師 氏名： 中村圭一郎

学内内線番号： 7320 PHS(所有している場合)： 2321

e-mail： k-nakamu@cc.okayama-u.ac.jp